

新作能「裁断橋」

番組

十八時半始メ

トークシヨウ 観世流シテ方 久田 勘鷗

和泉流狂言方 佐藤 友彦

武芸家 草薙 典龍

前シテ(金助ノ母ノ霊) 久田三津子

後シテ(堀尾金助ノ霊) 久田 勘鷗

裁断橋 ワキ(東国方ノ旅僧)飯富 雅介

大鼓 河村裕一郎 太鼓 加藤 洋輝
小鼓 久田舜一郎 笛 斉藤 敦

間(姥堂の堂守) 佐藤 友彦

後見 梅若 紀佳
瀬戸 洋子

地謡 吉沢 旭
山田 義高
下川 宜長
梅若 紀長

(二十時半頃終了予定)

※撮影・録音はご遠慮下さいませ。

※出演者は都合により変更となる場合がございます。

ご了承くださいませ。

「裁断橋」あらすじ

東国方の僧が熱田神宮の参拝を思い立ち、東海道を旅して精進川のほとり橋のたもとにたどりつきます。橋を渡り熱田の宿に入ろうとすると、一人の女性が欄干の擬宝珠を見て念仏を唱えて渡るよう声をかけます。不審に思った僧が尋ねると、昔18才で小田原攻めに出陣しながら長逗留の陣中で病死した堀尾金助のことを語り、姿を消してしまいます。姥堂の堂守から裁断橋の故事を聞かされ、その女性が金助の母の霊と悟った僧が二人の菩提を弔っていると、若武者姿の金助の霊が現れ、初陣の場に臨みながら一度も刃をまみえることなく病死した我が身の無念さを語り舞った後、僧の読経と橋を渡る人々の念仏の声に、有明の空に消えて行きます。

擬宝珠の碑文

てんしやう十八年二月十八日に、をだはらへの御陣、ほりを金助と申十八になりたる子をたたせてより、又二目とも見ざる哀しさのあまりに、いまこの橋をかけるなり、母のみには落涙ともなり、即身成仏し給へ、いつがんせいしゅんと、のちの世の又のちまで此かきつけを見る人は、念仏申し給へや、三十三年の供養也。
*「いつがんせいしゅん」は金助の戒名。

お申込み用紙 送り先 FAX: 052-446-6025 MAIL: shinsakunohseisakukai@gmail.com

チケットとお振込み用紙をお送り致します。到着致しましたら1週間以内にお振込みをお願い申し上げます。

ご予約お名前

様

全自由席 5,000 円 ×

名様

学生の方は○印をお願い申し上げます

学 生

学生 2,000 円 ×

名様

ご住所 〒

市区
郡

合計

円

お電話番号

()

メールアドレス